

宿泊施設を無料開放

山形市東古館にある市農業研修センターが、6月から援農者など向けに無料で宿泊施設を開放している。これから本格化するサクランボなど、農作業の繁忙期に臨時作業員として働く人などへの便宜を図る初の試み。利用の予約はまだないが、関東方面などから問い合わせが来ているという。

山形市農業研修センター

援農者向け

同センターは1984年にオープンした。宿泊用として、6畳敷きの1人部屋と18畳敷きの4人部屋が2室ずつある。

宿泊できる期間は、宿泊する月の最初の日から末日までを1回の限度とし、最長3カ月、2回まで更新できる。

市農政課などは、ちろしや市のホームページなどで周知を図っている。

交通と宿泊 確保に総力

県、JAなど

農業労働力を受け入れる上で特に課題となるのが、交通手段と宿泊先確保の問題。

山形市農業研修センターに隣接する「協同の杜」JA研修所では、2017年度からJAを通じた一定日数のサクランボ援農者に1泊2食付きの特別価格で宿泊を提供している他、天童市でもJAや地元ホテルと連携して宿泊利用者への助成を行っている。他のJAでも農業労働力確保に向け、受け入れ体制の整備に努めている。